

## 〔国 語〕

○ 実施時間 ①グループ【15:00～15:40】(40分)

②グループ【15:30～16:10】(40分)

○ 次の注意をよく読んでおくこと。

- (1) 「始め」の合図があるまで問題用紙を開かないこと。
- (2) 問題は  ～ 、11 ページまであります。
- (3) 答えはすべて解答用紙の解答らんにはっきりと、ていねいに書きなさい。
- (4) 答えを直すときは、きれいに消してから書きなさい。
- (5) 内容に関する質問は受け付けません。
- (6) 気分が悪くなったり、トイレに行きたくなったりしたら、手をあげて監督<sup>かんとく</sup>の先生に合図しなさい。
- (7) 「終わり」の合図があったら、直ちに筆記用具を置き、解答用紙が回収されるまで待っていなさい。
- (8) 解答上の注意
  - ・字数指定のあるものは、句読点〔。、〕および「」や（）なども一字と数えること。なお、一マスには一字しか入れられません。
  - ・文末表現は、「こと」、「から」など、問いにふさわしい形にし、文の終わりには句点〔。〕をつけなさい。

受験 番号		氏 名	
----------	--	--------	--

一 次の——のカタカナを漢字に改めなさい。

- ① 蚕かいこのまゆからキヌをとる。
- ② 草原で暮らすユウボク民族。
- ③ シキテンに参加する。
- ④ 畑をタガヤす。
- ⑤ 解決策をティアンする。

二 次の 1、3 の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

1

最近アデイスでよく滞在しているオリンピアの路上にも、何人か「常連」の物乞いがいる。このあたりは、大通り沿いにビルが建ち並び、おしゃれな店も多い地区だ。

その歩道で、ひとりの高齢の老婆がよく物乞いをしている。浅黒い顔に刻まれた深い皺からは、かなりの歳を重ねているように見える。足腰が弱っていて、ゆっくりとしか歩けない。だから歩道の中央に突っ立ったまま、道行く人に手を突き出すようにして、お金をせがんでいる。

歩いている人は、たいてい不意に腕や胸のあたりを手で突かれる格好になる。若い男性などは、不機嫌そうに振り返って、睨みつけたりする。でもほとんどの人は、その老婆の姿を目のあたりにすると、仕方ないなという顔になる。そしてポケットから小銭を取り出し、手渡ししている。

老婆は、当然のように無言でお金を受けとると、また次の人に手を突き出す。いままで、この老婆が物乞いに失敗したのを見たことがない。

エチオピアの人びとは、よく物乞いにお金を渡している。きつとぼくらのほうが豊かなのに、そんな金持ちの外国人が与えずに、あまりもたないエチオピア人が分け与えている。その姿に、ふと気づかされる。

② いかにもぼくらが「交換のモード」に縛られているのかと。

③ いまの日本の社会では、商品交換が幅を利かせている。さまざまなモノのやりとりが、しだいに交換のモードに練り入れられてきた。それは、面倒な贈与を回避し、自分だけの利益を確保することを可能にする。厄介な思いや感情に振り回されることもなくなる。しかし、この交換は、人間の大切な能力を覆い隠してしまう。

## 共感する力、共感を抑える力

ぼくらは他者と対面すると、かならずなんらかの思いを抱く。無意識のうちに他者の感情や欲望に自己の思いを共鳴させている。泣いている赤ちゃんを目の前になると、なんだか自分まで悲しくなってくる。なにかしてあげねば、という気になる。人がダンスの角などに足の小指をぶつけるのを見ると、その「痛み」はひとごとには思えない。思わず「あいたたた」と声が出てしまう。

この「共感」が、コミュニケーションを可能にする基盤でもある。

身体の弱った老婆を目のあたりにして、なにも感じないという人はいないだろう。でも「交換」のモードには、そんな共感を抑え込む力がある。

物乞いのおばあさんがみんなから小銭をもらうのは、彼女だっどこかでお金を商品と交換する必要があるからだ。どんなに貧しいおばあさんでも、スーパーに行つて商品をタダでくださいと言ってもらえるわけではない。商品交換の場では、そのおばあさんが「貧しそう」とか、「歳をとっている」とか、「身体が弱っている」なんて共感を生じさせる情報は余計なものとして除去される。誰もが透明な存在として感情や思いなしに交換することが求められる。それはエチオピアでも同じだ。

でも多くの日本人は道端で物乞いの老婆を目にしたときも、この交換のモードをもちだしてしまふ。いろんな共感を引き起こしそうな表情とか、身なりとかを見なかったことにする。まるで北山のおちゃんへのスーパーの客や店員の態度のように。

同時にそれは、ぼくらがたんに日本に生まれたという理由で彼らより豊かな生活をしているという「うしろめたさ」を覆い隠す。そして物乞いになにも渡さないことを正当化する。交換のモードでは、モノを受けとらないかぎり、与える理由はないのだから。心にわきあがる感情に従う必要はないのだから。

「みんなに与えられるわけではない」。そう思うかもしれない。でも、おそらく金額そのものが問題ではない。道で出会う物乞いにそのつど一ブル(約五円)ほど渡したところで、たいした額にはならない。彼らはそれくらいでも、こころよく「神のご加護を」と言つて受けとってくれる。

商品交換のモードが共感を抑圧し、面倒な贈与と対価のない不完全な交換を回避する便法となる。ぼくらはその「きまり」に従つただけでなにも悪くない。そう自分を納得させている。

あるいは「与えることは彼らのためにならない」と言うかもしれない。これだつて同じ正当化にすぎない。ためになるかどうかは、そもそも与える側が決められるものではないからだ。④ いろんな理屈をつけて最初に生じたはずの「与えずにはいられない」という共感を抑圧している。共感とその抑圧。これが「構築」を考へるときのポイントになる。

## 「あふれる思い」の可能性

エチオピア人の振る舞いからは、彼らが共感に心を開いているのがわかる。かならずしも「分け与えなければならぬ」という宗教的義務が強固だからではない。物乞いの姿を前にしたときにわきあがる感情に従っているまでだ。だから相手に共感を覚えなければ、彼らだつて与えない。実際、物乞いを怠け者だと非難する人は多い。でも、そんな彼らも道ばたで老婆に手を差し出されたら、渡さずにはいられなくなる。

そう、老婆はただ「ほら、わたしを見なさい」と言つて手を突き出している。エチオピア人は、その抗しがたいオーラにすつと身を任せる。

残念ながら、これは共感を抑圧している人には通じない。商品交換のモードはそこに生じた思いや感情を「なかつたこと」にする。多くの日本人はそれに慣れきつている。

ぼくらでも、店で商品を買うような交換の場面で、店員とのモノのやりとりになんらかの思いや感情が「生じない」のではない。それは、そこから「差し引かれている」。

ふとわきでるさまざまな思いや感情は、交換のモードをとおして不適切なものとして処理され、「なかつたこと」にされる。でもだからこそ、この「処理」はときどき誤作動する。

マクドナルドの店員のスマイルを、自分への好意だと勘違いすることもある。コンビニでバイトしている学生に聞いた話では、レジに立つ女性店員に告白する男性客がけっこういるそうだ。これは、むしろ当然のことだと思う。

商品交換の場でも、ときに抑圧をすり抜けて、思いや感情があふれだすことがある。そこに社会を再構築する鍵がある。別の振る舞いができる余地がみえてくる。

同時に、物乞いに抵抗なくお金を与えているエチオピア人の姿を見て、なぜ自分はお金を与えることに躊躇するのだろう、と問うことができる。他者の振る舞いから、自分自身がとられた「きまり」の奇妙さに気づくことができる。人の振り見て、我が身を疑う。これが人類学のセンスだ。モースの言った「鋭敏な感覚」にもつながるかもしれない。

ぼくらの身体は経済と非経済といった「きまり」に縛られている。でもつねに逸脱の可能性も開かれている。構築人類学は、この「ずれ」に光をあてる。そこから別の可能な姿の世界を構想する。それは内なる他者に気づくことでもある。

最近、エチオピアでは、私もポケットに小銭があれば、誰かに渡している。なるべく収支の帳尻をゆるくして、お金が漏れていくようにしている。

自分が彼らよりも不当に豊かだという「うしろめたさ」がある。つねに彼らからいろんなものをもらってきたという思いもある。そのうしろめたさに、できるだけ素直に従うようにしている。

それは「貧しい人のために」とか、「助けてい」という気持ちからではない。あくまでも自分が彼らより安定した生活を享受できているという、圧倒的な格差への「うしろめたさ」ではない。

この違いはとても大きい。善意の前者は相手を貶め、自責の后者は相手を畏れる。

そうやって物乞いの人たちと顔見知りになると、笑顔であいさつを交わすだけで、なにも求められなくなる。彼らも「いつももらうのは申し訳ない」と思うのかもしれない。贈与は人のあいだの共感を増幅し、交換はそれを抑圧する。

⑥ エチオピアにいと、商品交換のモードに凝り固まった身体がほぐれていく。このほぐれた身体で、世界の歪みを揉みほぐしていく。

(松村圭一郎『うしろめたさの人類学』ミシマ社より)

注1 アデイス……エチオピアの首都アデイスアベバの略。

注2 オリソピア……エチオピアにあるホテルの名前。

注3 モード……形式。

注4 北山のおっちゃん……筆者が京都に暮らしていた頃、近所でよく会った初老の男性。

注5 便法……便利な方法。

注6 構築……ここでは、「作られたもの」という意味。

注7 モース……フランスの文化人類学者。

注8 逸脱……決められた枠からはずれること。

問1 —— ①のような行動をエチオピアの「ほとんどの人」がとるのはなぜだと筆者は考えていますか。理由としてふさわしいものを次の中からすべて選び、記号で答えなさい。

ア 少しのお金を渡すことによって老婆の元から離れ、早く目的地に向かいたいと考えているから。

イ 老婆は身体が弱つていそうに見えるため、そのまま立ち去ることはできないと考えているから。

ウ 老婆が人々からお金をもらおうとするのは、どこか別の場所で高価な商品を手に入れるためであるとわかっているから。

エ 他人と対面することによって生じる何らかの気持ちに、素直に従って行動しているから。

オ エチオピアは豊かな国ではないが、困っている人がいたらお金を渡し、国民全員で助け合おうという文化があるから。

問2 — ②について、「いまの日本の社会」で行われている「商品交換」の中で優先されるものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 贈与    イ 利益    ウ 感情    エ 共感    オ 善意

問3 — ③とはどのような力ですか。「くさせる力。」という答え方につながる部分を本文中から二十字以上二十五字以内でぬき出し、はじめと終わりの五字を答えなさい。

問4 — ④について、次の(1)と(2)の問いに答えなさい。

(1) 「いろんな理屈」にあてはまるものを次の中からすべて選び、記号で答えなさい。

- ア 何の理由もなく人に何かを与えてしまうことは、その人のためにならない。  
イ 生活が苦しい人や、身体が弱っている人は、国が責任をもって助けるべきだ。  
ウ 困っている人には分け与えなくてはならない、という宗教的な義務はない。  
エ 何かを与えようと思っても、全員に与えられるわけではない。  
オ 自分も何かを受け取らない限り、誰かに何かを与える理由は全くない。  
カ 心にわきあがる感情に従う必要はない。

(2) 「いろんな理屈」をつけて共感を抑圧することで、どうすることが可能になりますか。「くをしなくてもすむこと。」という答え方につながる部分を本文中から十七字でぬき出し、はじめと終わりの五字を答えなさい。

問5 — ⑤とありますが、このことは「商品交換」の場にいる人々をどのようなものとして考えることだと筆者は述べていますか。  
2 の文章から比喩的に表現されている言葉を五字でぬき出して答えなさい。

問6 — ⑥とありますが、これによって変化した筆者の行動が具体的に述べられた一続きの二文を本文中からぬき出し、はじめの五字を答えなさい。

問7 筆者はどのようなことに「うしろめたさ」を感じていると考えられますか。ふさわしいものを次の中からすべて選び、記号で答えなさい。

- ア 日本に生まれたという理由だけで、エチオピアの恵まれない人々より裕福な生活をしていること。  
イ エチオピアの物乞いの人々を、日本人である自分がたんなる愈げ者だと非難してしまうこと。  
ウ 日本人である自分がエチオピアの人々から常にいろいろなものをもらってきたということ。  
エ エチオピアの貧しい人々を助けたいという気持ちで、物乞いにわずかばかりの小銭を渡していること。  
オ エチオピアの人々と比べ、日本人である自分は日々安定した暮らしを送れていること。

問8 次の会話文は、この文章を読んだ中学生の獨太君と協平君のもので、これを読んで後の(1)と(2)の問いに答えなさい。

協平 ぜひ君に聞いてほしい話があるんだ。僕の兄の話なんだけれどね。

獨太 何かあったの？

協平 兄は、よく行くコンビニエンスストアの店員さんのことを好きになったんだよ。なんでも、兄が買い物に行くと、いつもにっこり笑いかけてくれるんだって。それで、兄はすっかりその店員さんも自分のことを好きなんだと思っただけなのさ。

獨太 うんうん。それで？

協平 ところが、いざ思いを伝えたら、ふられてしまったんだよ。その店員さんはひどいと思わないかい？

獨太 残念だけれども、君のお兄さんは3の文章に出てきた「誤作動」を起こしたんだね。

協平 何だっけ、それ。

獨太 「誤作動」とは、①三十四字 なんだ。とても人間らしい行動なんだけれどね。

協平 そうなのか。でも気の毒だなあ。兄は店員さんから特別扱いされていると思っていたからね。

獨太 いや、気の毒だと思ふ必要はないよ。この「誤作動」によってみえてくるものがあると筆者は述べているのだから。理解しやすいように、メモを作ってみたよ。見てくれるかい。

協平 へえ。「誤作動」って素晴らしいものだね。こんなに勉強できるなんて、兄の「誤作動」もなかなか役立ったね！

(1) ①に入る言葉を、指定された字数で本文中からぬき出し、はじめと終わりの三字を答えなさい。

(2) 獨太君は「誤作動」の意味を理解しやすくするため、次の【メモ】を作成しました。②・③に入る言葉を、それぞれ

指定された字数で本文中からぬき出し、はじめの五字を答えなさい。

【メモ】

「誤作動」について

・「誤作動」によって、別の行動ができる余地がみえる。

・「誤作動」には ②十二字。つまり、今の社会を作り直すヒントがある。

同時に

・他者の振る舞いから、自分がとらわれている「きまり」の奇妙さに気がつくことができる。

↑これらの結果

③九字

を考えることができるようになる。つまり、自分の見えている世界が唯一のものではないことに気がつく。